

議事	第 1 回	1. 大山崎地区の課題を踏まえた整備の内容について 2. 御幸橋野草地区の検討の進め方について
	第 2 回	1. 平成 25 年 9 月水害による淀川河川公園の被災と復旧の状況について 2. 背割堤地区の整備の進捗状況 3. 大山崎地区、御幸橋野草地区の今後の整備について 4. その他の話題提供（水無瀬ゴルフ場の返還について）

■ 上流域の河川公園の位置関係



■ 御幸橋野草地区の変遷



■ 大山崎地区の再整備の考え方（第 2 回地域協議会審議資料）

第1回上流域地域協議会での主な意見

- 公園相互の連続性のある利用
 - ・（緊急用河川敷道路を通して双方を行き来できるようになったため）大山崎地区と桂川河川敷公園の連続性のある利用の方法について、自治体と国と検討していく。
- 高架付近の整備上の留意事項
 - ・大山崎地区と桂川河川敷公園との連続性について、利用促進を図る方向でいくと、逆に京滋バイパスの高架下でバーベキューをされる問題が起こりやすくなる。
 - ・高架下でのバーベキューは、ごみの問題などを誘発するので、慎重に考える必要がある。
- サッカー利用について
 - ・大山崎地区を整備した時代は野球が中心だったが最近ではサッカーが盛んで、利用できる場所が不足していると言われている。
 - 一試合等を行う場合は占用許可をとる必要がある。練習やミニゲームを行う場合は、多目的広場なので（周囲の利用者に迷惑にならない範囲で）自由に使用できる。
- 昔の利用について
 - ・かつて大山崎地区の野球場の前あたりに船着場があり、川を下って荷物を揚げたりしていた。そこを「浜」と呼んでよく繁盛していたらしい。
- 水辺の安全性
 - ・小泉川、小畑川は、最近のゲリラ豪雨で直ぐに水位が変化するのはないが、整備に当たっては、川の性格をふまえ、安全性を慎重に考える必要がある。
 - ・水際の利用については、環境教育や安全教育も含めて考える必要がある。
- 河鮮林の伐採について
 - ・多摩川のように全部切ってしまうことはできないか。昔はこのような木はなかった。
 - 一昔は木は大きくなる前に流されていたが、治水整備が進んだ反面、樹木が洪水で流されずに育ってしまった。河川敷の樹木は切るのが原則である。
 - なお、河川公園内は洪水に支障がない範囲で植栽が認められている。



整備・維持管理の方向性

公園区域の拡大

■ 御幸橋野草地区（仮称）の整備の考え方（第 2 回地域協議会審議資料）

第1回上流域地域協議会での主な意見

- 自然環境の利用について
 - ・植生では、河川氾濫性の種であるカワヂシャ、ヤガミソグ、ミコシガヤが貴重種として挙げられているので、ここを大きく捉えてメリハリをつけてはどうか。
 - ・石川河川公園（大阪府）では河川本来の高水敷の姿を残していく「自然ゾーン」という区域がある。自然が好き人や観察が好き人の利用は結構あるが、子供たちの利用はそれほどない。
 - ・御幸橋周辺は、利用をもう少し考慮した整備を考えた方がよい。
- 歴史的な利用のされ方
 - ・現在の状態は木を切らなかったために大きくなったものであり、本来の姿をまず確認する必要がある。
 - ・御幸橋の付近は森のようにになっているが、昔は砂浜みたいになった水泳場だった。
 - ・キャンプがはやり頃はキャンプ場にしてはどうかという話があった。しかし今はそれほど人気でもない。
 - ・歴史的な推移をみると、いろんな利用のされ方があった。カヌー、ラフティングなど、ここを実際に利用する可能性のある方とか、実際に利用されている方、あるいは団体とかグループの意見を聞く方法もある。
- 整備の方向性について
 - ・八幡市側は何度も浸水しており、かねてより御幸橋野草地区の樹木の伐採を要望している。
 - ・水辺まで行けるようなルートの整備を考えていただけたらどうか。
- 今後の検討の進め方
 - ・今後の御幸橋野草地区の歴史や利用の話をしし丹念に聞いてから検討を進める。

木津川と河川敷の昔の利用に関する地元ヒアリング結果

- ・昭和 40 年代前半まで、御幸橋の上流側から下流側の科手（しなで）までの木津川河川敷に水泳場があり、夏季には大阪や京都などからの多くの人で賑わっていた。
- ・水泳場があった頃は現在のような樹木はなかった。
- ・水泳場の水際は現在のようなガケではなく、堤防から水辺までならなかった。
- ・川の岸辺には三角屋根のバンガローが点在していた。
- ・木津川右岸側の河川敷には、子供の背が立たないくらい水たまりが多くあった。
- ・毎年 4 月 29 日の飛行神社例祭に合わせ、模型飛行機の飛行大会が行われていた。
- ・木津川は砂地で水がきれいでも小魚がよく捕れ、地元の子供は毎日泳いでいた。
- ・花火大会があった。
- ・御幸橋の上流にあった「常磐の浜」から、八幡産の竹を筏に組んで大阪へ運んでいた。
- ・さらに上流の「家田の浜」付近で、畑のある川北（木津川の右岸側）へ歩いて渡っていた。
- ・井戸の水は金ツブが多く洗剤が綺麗にならないため、木津川の水で洗濯や野菜の泥落としをしていた。
- ・禁猟になる以前は自由に狩りをしていた。

新規開園区域の機能（案）

- ① 木津川を眺めながら散歩ができるルートの確保（水際の河鮮林を伐採・除根し、植生管理により背丈の低い帯状の草地を誘導）
- ② 水遊びやカヌーの乗降ができる水辺へのアクセス性の確保
- ③ 駐車スペースの確保